

Viva Arte Vol.1

文化研究講座 ~4/21 新日本フィルハーモニー交響楽団演奏会~

みなさん こんにちは★

私たちは文化研究講座をより楽しむために、ちょっとした知識やおすすめの曲を学生の視点から、わかりやすく楽しく紹介しようと考えて、この企画を始めました！

初回は、今年度最初の講座で、新日本フィルハーモニー交響楽団の方々が演奏してくださる、ロッシェニ「ウィリアム・テル序曲」、チャイコフスキー「ピアノ協奏曲第一番」、ドヴォルザーク「新世界より」の紹介をします！

I 作曲家 ジョアキーノ・ロッシェニ

皆さんはお料理で「ロッシェニ風」という言葉を聞いたことがありますか？

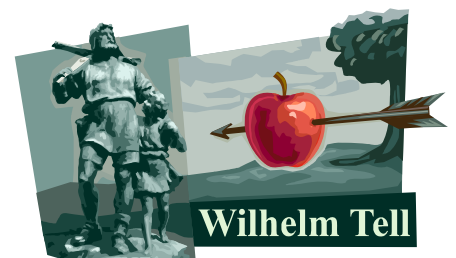
実は「ロッシェニ風」の“ロッシェニ”は、イタリアの作曲家ロッシェニのことです。

彼は美食家としても有名で、たとえばフランス料理の「ロッシェニ風 牛ヒレ肉のフォアグラ添え（トルヌード・ロッシェニ）」というメニューに、彼は登場していたということなのですね！

ロッシェニ風メニューの特徴は、世界三大珍味であるフォアグラやトリュフ、そしてバターが贅沢に使われていることです。37歳で事実上引退した彼は、その後の40年以上を美食生活に費やしていきます。こんな高カロリー・高脂肪の食生活は体に良いわけがなく、中年以降の彼はお腹が出て、痛風にも悩まされました。晩年、彼が自宅で催した豪華な晩餐会では『ロマンティックな挽肉』のような、食材をタイトルにしたピアノ曲が料理とともに披露されていたそうです。聞いてみたいと思いませんか？！

『ウィリアム・テル 序曲』

ロッシェニが生涯に作曲したオペラの数、なんと39作。その最後を飾るオペラが、「ウィリアム・テル」です。主人公のテルは、スイスの国民的英雄。息子の頭にリンゴをのせ、それを弓矢で見事に射落とすエピソードは有名ですね。シラーの戯曲『ウィルヘルム・テル』が原作で、恋愛あり、復讐ありの壮大なドラマです。このうち「序曲」は、小学校の音楽の授業ではもちろん、運動会でもおなじみの曲なので聞いたことがあると思います。



そもそも序曲とは、オペラやバレエ音楽などが始まる前に管弦楽だけで演奏される音楽のことを言います。18～19世紀の序曲はオペラ全体の内容を暗示し、独立して演奏することも可能になりました。序曲で有名なものには、モーツァルトの『フィガロの結婚』序曲やベートーベンの『レオノーレ』序曲、ワーグナーの『タンホイザー』序曲などがあります。

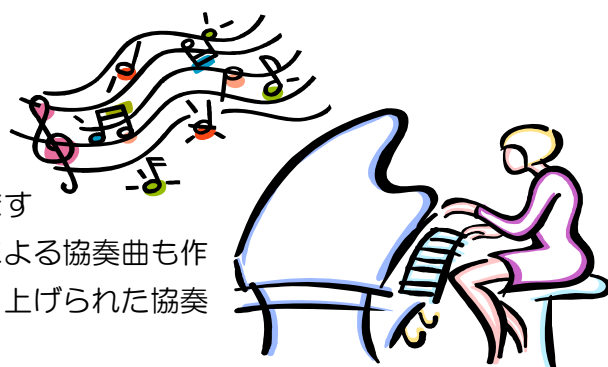
『ウィリアム・テル』は4時間近くの長い上演時間なので、今では全幕を上演することは少なく、序曲だ

けが単独で演奏されることが多くあります。この序曲は「夜明け」「嵐」「牧歌」「スイス軍の行進」の4つの部分から構成されています。まず「夜明け」ではスイス・アルプスの美しい夜明けを描くと共に、圧政にあえぐスイスに朝が訪れたことも象徴されています。次の激しい「嵐」はテルたちの祖国を救う戦を表すかのようで、続く「牧歌」では嵐が去った後のスイスの山並みに訪れた平和で静かな風景が表わされています。そして最後に、もっとも有名な「スイス軍隊の行進」。トランペットの進軍ラッパを皮切りに、軽快で勇壮な行進が描かれています。

1829年にパリのオペラ座で初演され、大成功を収めました。ロッシーニの他の作品では、『セビリヤの理髪師』が特に有名です。

Ⅱ 作曲家 チャイコフスキーとは？

チャイコフスキーは三大バレエと呼ばれる「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」を作曲しました。みなさんも「白鳥の湖」の“情景”や「くるみ割り人形」の“あしびえの踊り”など一度は耳にしたことがあるかと思います。彼自身、バレエが大好きだったそうで、「白鳥の湖」は自分自身で物語を書いたという説もあります。



『ピアノ協奏曲第一番』

独奏楽器と管弦楽器で共に演奏される曲を協奏曲と呼びますが、チャイコフスキーはピアノ協奏曲の他にヴァイオリンによる協奏曲も作曲しており、とても有名です。彼の生涯において最初に作り上げられた協奏曲が、この「ピアノ協奏曲第一番」です。

【第一楽章】

この楽章の冒頭は、みなさんどこかで耳にしたことがあるメロディだと思いますので、クラシックが苦手な方でも聴きやすいのではないのでしょうか。落ち着いた部分と盛り上がる部分とがあり、メリハリがあって飽きがこないのがこの楽章の良さかと思います。

【第二楽章】

全体的に落ち着いたメロディです。

中間部はフランスの小唄からの引用で、この小唄を歌っていたのが、チャイコフスキーにとって初めての恋人となったメゾ・ソプラノ歌手デジーレ・アルトーです。

「ピアノ協奏曲第一番」が完成するおよそ7年前、デジーレ・アルトーとチャイコフスキーは、人生を共に歩んでいこうと婚約します。しかし、この二人の才能の可能性を信じたチャイコフスキーの友人が、この婚約を止めようとし、チャイコフスキーの友人から、「お互いを本当に想うなら、結婚しない方が良い」と忠告を受けた二人は婚約を解消します（この恋愛物語の詳細は 寺島春雄『チャイコフスキー』（音楽之友社、1974年））。デジーレ・アルトーと深く愛し合った思い出として、彼女が歌っていた小唄の旋律を引用してこの曲を作ったといわれています。

このチャイコフスキーの恋愛物語を読んでから改めて第2楽章を聴いてみて、愛し合う男女の恋愛模様を描いているように感じました。残念ながらハッピーエンドではありませんが、恋人と過ごす幸せに満ち足りた日々をとても優しいメロディで表現していて、心に染み入るものがあります。

「この二人がどんな幸せな日々を送っていたのだろうか」ということを想像しながら聴いてみてください♪ 別の楽しみ方ができるのではないのでしょうか。

【第三楽章】

先ほどの 2 楽章とは全く違う、堂々とした楽章です。しかし決して荒っぽいということはなく、美しいメロディです！！

この楽章は自然と体が動いてしまうような、ピアノのとても軽快なメロディが印象に残ります。また、個人的には、全ての楽章の中でピアノとオーケストラの掛け合いが素晴らしいと感じています。

盛り上がる曲が好きな私のオススメは、フィナーレです！！ とても盛大なフィナーレで、終わった後は思わず「ブラボー！」と言ってしまいたくなるような気持ちになります★（もちろん最終楽章が終わったあとの「ブラボー！」は大歓迎です♪）

Ⅲ ドヴォルザークと

『新世界より』の背景

チェコ出身であるドヴォルザーク。ドヴォルザーク作曲の有名な曲といえば「ユーモレスク」が挙げられます

が、この「新世界より」（特に第 2 楽章、第 4 楽章）も絶対耳にしたことがあると思います♪

ところで「新世界より」の「新世界」とはどこのことを指すと思いますか？

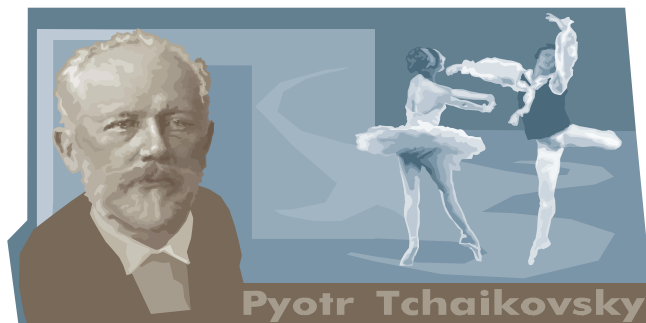
答えは……アメリカです！

ドヴォルザークは 1891 年春に、ジャネット・サーバーという女性からニューヨークのナショナル音楽院の院長になってほしいという電報を受け取ります。しかし、大西洋を渡っての船旅への不安、また当時の彼はチェコのプラハ音楽院の教授になって日が浅く、就任して間もないプラハ音楽院を留守にしてよいものかと考えました。ところが、ジャネット・サーバーは忍耐強く交渉を続け、プラハ音楽院の 3 倍以上の給料を支払うことや、年 4 カ月は自由にして良いなどの条件を提示し、ドヴォルザークは渡米を決意します。そしてアメリカ滞在中の第一作目が「新世界より」でした。新世界アメリカの衝撃的な印象と故郷チェコへの思いを感じさせる曲です（詳しくは後ほど）。

「新世界より」初演のおよそ 50 年前、クラシック音楽がまだよその国の文化であったアメリカでは、ヨーロッパのクラシック音楽を取り入れ、独自のものに発展させようという機運が高まった結果、現在のニューヨーク・フィルの前身であるニューヨーク・フィル・ハーモニック協会が設立されました。ニューヨーク・フィルのために作られたのがカーネギー・ホールというホールであり、このホールで数多くの著名な作曲家による演奏会が行われ、徐々にアメリカのクラシック音楽界をリードするものとなりました。「新世界より」の初演も、カーネギー・ホールにおいてニューヨーク・フィルによって行われました。この演奏は、カーネギー・ホールが設立されてから類例を見ない程の大成功を収めたそうです。

アメリカのクラシック音楽界をリードしてきたカーネギー・ホールでの大成功。この演奏によって、ドヴォルザークはアメリカのクラシック音楽界の発展に貢献したと言えるのではないのでしょうか。

このような背景をもつドヴォルザーク「新世界より」ですが、より聴きやすくするためにオススメポイントなどを次にご紹介します。



【第一楽章】

ドヴォルザークが新世界アメリカに到着し、およそ4カ月が経とうとした頃に第一楽章が作られました。冒頭は静かに流れる音色により、アメリカに来て不安を感じているような印象です。冒頭以降もアメリカのことがさっぱりわからず、困惑している様子を表現しているような気がします。不安でいっぱいのアメリカ生活のスタートを感じさせます。



【第二楽章】



引用：音楽之友社編 『作曲家別名曲解説ライブラリー⑥

ドヴォルザーク』（音楽之友社,2004）

この曲、何の曲かわかりますか？

日本では「遠き山に日は落ちて」という歌のメロディとして親しまれています。

実はこの歌の原曲は、「新世界より」の第二楽章なのです。

また、日本では「家路」というタイトルも付いており、夕方になるとこの曲が流れる地域の方も多いのではないのでしょうか。ドヴォルザークは、故郷チェコでの思い出に浸って、さまざまな思いを巡らせ、そのような気持ちをこの曲に反映したのではないのでしょうか。穏やかに、そして心にしっかりと、メロディが流れ込んでくる気がします。

【第三楽章】

なんと、第三楽章を書き終えるまでドヴォルザークが実際に体験したアメリカは、自分のアパートから歩いて数分のナショナル音楽院、船が好きだったので毎日通った波止場だけだったそうです。

第三楽章は第一楽章とは違い、アメリカへの期待が込められているような明るい曲調となっています。

アメリカでの異文化体験を期待するドヴォルザークですが、彼の運命はいかに……。



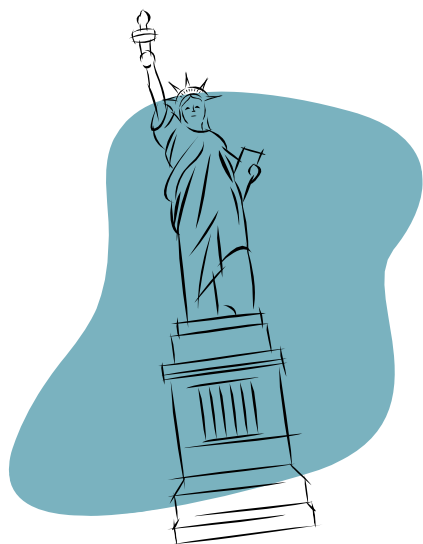
プラハ遠景

【第四楽章】

「新世界より」の聴きどころは、壮大な第四楽章。指揮者の西本智実さんが出演する車のCMなどにも使用されています。当時のニューヨークは現在同様、自由の女神像や、すでに多くのビルが立ち並び、チェコとのあまりの差にドヴォルザークは衝撃を受けました。

第四楽章はそういったニューヨークでの強烈な体験を盛り込んだ結果、印象に残る壮大なメロディとなったのではないのでしょうか。

作曲者自身のカルチャーショックから、こんな素晴らしいメロディが生み出されました。壮大なフィナーレを初めて聴いた時、私は感激して鳥肌が立ちました！ 気を抜かず、最後の最後まで聴いてほしいと思います。





現在のニューヨーク



旧市街市場（プラハ）

いかがでしたでしょうか？
ご意見・ご感想、リクエスト等ありましたら、
viva_arte_2010@yahoo.co.jp にメールください！！
お待ちしております♪
担当：現代教養学科 3年 Viva Arte 編集部

<参考文献一覧>

服部幸三 監修 森本真由美 著 『エピソードでつづる初めてのクラシック音楽—スタンダード100』 (ダイヤモンド社, 2007年)

家里和夫 『《ウィリアム・テル》序曲～管弦楽名曲集-1』 (コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社, 2003年)

寺西春雄 『チャイコフスキー』 (音楽之友社, 1974年)

音楽之友社編 『クラシック名曲ガイド 3 協奏曲』 (音楽之友社, 1995年)

音楽之友社編 『作曲家別名曲解説ライブラリー⑥ ドヴォルザーク』 (音楽之友社, 2004年)

音楽之友社編 『ガイドブック 音楽と美術の旅 アメリカ』 (音楽之友社, 1993年)

リブラリア・ムジカ http://www.asahi-net.or.jp/~WG6M-MYKW/Library_Dvorak_Sym9.htm (閲覧日：2010年4月12日)

<写真協力>

現代教養学科 清水真先生 (チェコの写真)、 現代教養学科3年 SKさん (ニューヨークの写真)

<チャイコフスキー番外編>

バレエ音楽がきっかけでチャイコフスキーの曲も聴くようになった私の、
オススメ曲をご紹介します。

♪弦楽セレナード第一番

とある派遣会社のCMで使われていましたので、みなさん冒頭部分はきっと聴いたことがあると思います。
あの冒頭部分はCMの印象からでしょうか。なんだか悲しい感じがします。
しかし、中間部以降はあの悲しい雰囲気なくなり、明るくなるのです。
そのギャップを感じ、私にとってはとても新鮮に感じられました！

♪管弦楽組曲第三番ト長調 最終楽章 主題と変奏

この曲はバレエ用に作られたわけではないのですが、日本を代表するバレエ団である新国立劇場バレエ団
など数多くのバレエ団で上演されている「テーマとヴァリエーション」という演目で使用されています。

この演目を初めて観たのが小学5年生だったのですが、どんな音楽なのか、どんな振付なのかも全く知
らずに観ました。ダンサーの高度な技術にも、もちろん感激したのですが、流れていた音楽が素敵だなあと
思い、曲名を調べてすぐに地元の図書館に借りに行きました。

なんとこの曲、チャイコフスキーもお気に入りだったそうで、彼が指揮をとる演奏会等で演奏される機会
も多かったそうです。

♪「くるみ割り人形」第一幕第二場より 冬の松林

バレエ「くるみ割り人形」の中で一番の見せ場である、雪の精たちが踊る場面。

振付家によってさまざまですが、この曲は雪の女王と王子が二人で踊るパ・ド・ドゥとして振付されてい
ることが多いです。実は私もこの雪の女王の座を狙っているのです……（笑）。

「自分が踊りたいから、オススメなんじゃないの？」と思った方、ぜひ聴いてみてください。

この曲だから踊りたいんです！

ちなみに私、雪の女王ではなく雪の精（群舞）として踊ったことがありますが、他の雪の精たちと息を合
わせながら、女王様を美しく見せるために頑張りました！ 他の人と息合わせるのがって本当に難しく、本
番ぎりぎりまで厳しい指導ばかりでしたが、みんな一緒に踊れるからバレエって楽しいんだと個人的には思
っています★ とても楽しかったです！